
山辺町スポーツ推進計画

Go Go Sports やまのべ

令和4年3月

山辺町

目 次

第1章 計画策定にあたって	1
第1節 計画策定の趣旨・目的	3
第2節 スポーツの定義	4
第3節 計画の位置づけ	4
第4節 計画の期間	5
第2章 山辺町を取り巻く現状	7
第1節 統計データからみる現状	9
第2節 スポーツ施設やイベント、団体からみる現状	14
第3節 町民へのアンケート調査結果からみる現状	17
第4節 関係団体へのアンケート調査結果からみる現状	28
第3章 計画の基本方針	31
第1節 基本理念	33
第2節 基本目標	34
第3節 計画の体系	35
第4章 施策の展開	37
第1節 世代を超えて誰もが楽しめるスポーツの推進	39
第2節 未来につながるスポーツ環境づくり	42
第3節 スポーツ推進を支える公共施設の管理・運営	46
第5章 計画の推進体制	47
第1節 推進体制	49
第2節 計画の進捗管理	49
資料	51

第 1 章

計画策定にあたって

第1章 計画の策定にあたって

第1節 計画策定の趣旨・目的

少子高齢化などにより社会情勢が大きく変化する中、スポーツの果たす役割への期待は広がりを見せています。生活習慣病の予防・改善や、介護予防を通じた健康寿命の延伸などの役割に加え、地域の活性化や、コミュニティの創成といった役割も期待されています。

国においては、平成23年8月に「スポーツ基本法」が施行され、平成24年3月にはこのスポーツ基本法に基づいた「スポーツ基本計画」が策定されました。さらに、平成27年10月には、スポーツ基本法の趣旨を踏まえ、スポーツに関する施策を総合的に推進する「スポーツ庁」が設置されました。

スポーツ庁では、平成30年9月に「スポーツ実施率向上のための行動計画」を策定し、「子ども・若者」「ビジネスパーソン^{※1}」「高齢者」「女性」「障がい者」のライフステージごとのスポーツ実施率を向上させようとしています。一人でも多くの方がスポーツに親しむ社会の実現を目的としており、生活の中に自然とスポーツが取り込まれている「スポーツ・イン・ライフ^{※2}」（生活の中にスポーツを）という姿を目指しています。

山形県においては、平成25年3月に策定した「山形県スポーツ推進計画」を、平成30年度に後期改定計画として改めました。その基本方針の1つとして、「生涯を通して楽しめるスポーツ活動の推進」を掲げ、幼児期から高齢期までライフステージに応じて楽しめるスポーツ機会の提供などの施策を展開しています。

全国的にスポーツ振興の機運が高まる中、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の日本開催は、スポーツに取り組む機運の醸成に大きな影響を与えました。山辺町においては、町の実情に沿ったスポーツ振興施策を総合的かつ計画的に推進することを目標とした、「山辺町スポーツ推進計画（Go Go Sports やまのべ）」を新たに策定します。本計画は、町民の誰もが生涯を通じて気軽にスポーツに親しむことができる山辺町を目指し、国や山形県のスポーツ推進計画との整合を取りながら、策定、推進することとします。

※1 ビジネスパーソン

ビジネスパーソンとは、ビジネスを行っている男女の総称を指します。

※2 スポーツ・イン・ライフ（生活の中にスポーツを）

スポーツ・イン・ライフ（生活の中にスポーツを）とは、スポーツを行うことが生活習慣の一部となり、一人でも多くの方がスポーツに親しむ社会が実現した姿を指します。

第2節 スポーツの定義

スポーツ基本法前文において、スポーツは、「心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵(かん)養[※]等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動」であると定義されています。

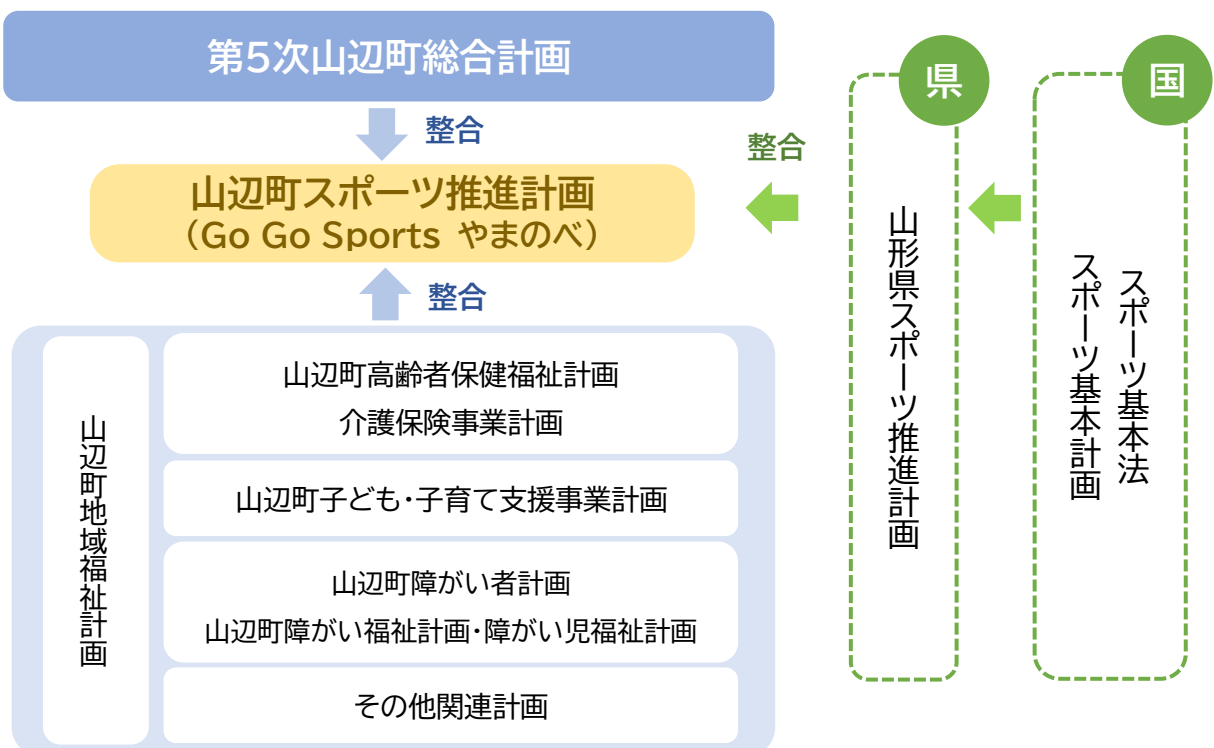
この考え方を踏まえ、本計画ではスポーツを幅広く捉え、競技としてのスポーツだけではなく、楽しむためのレクリエーション活動や、ウォーキングなどの健康づくりや体力づくりを目的とした軽く体を動かすような活動についても対象とします。

また、スポーツを「する」ことだけではなく、スポーツ観戦などのスポーツを「みる」こと、スポーツ指導やボランティア活動などのスポーツを「ささえる」ことなども含まれます。

なお、「スポーツ」という表記には上記すべてを含みますが、内容をより適切に表す必要がある場合は「運動」という表記を用います。

第3節 計画の位置づけ

本計画は、「スポーツ基本法第10条第1項」に基づく計画として、本町のスポーツ推進に取り組む基本的方向を示すものであり、第5次山辺町総合計画を上位計画と位置づけ、国のスポーツ基本計画や山形県のスポーツ推進計画、関連計画との整合性を踏まえて策定するものです。



※ 涵(かん)養

涵(かん)養とは、水が自然に染み込むように、無理をしないでゆっくりと養い育てることを指します。

第4節 計画の期間

本計画の計画期間は、令和4年度～令和13年度までの10か年とします。

なお、国や県の計画の変更、社会情勢の変化等により、必要に応じて計画の見直しを行います。

令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和 10年度	令和 11年度	令和 12年度	令和 13年度
第5次山辺町総合計画						次期山辺町総合計画			
山辺町スポーツ推進計画(Go Go Sports やまのペ)									

第 2 章

山辺町を取り巻く現状

第2章 山辺町を取り巻く現状

第1節 統計データからみる現状

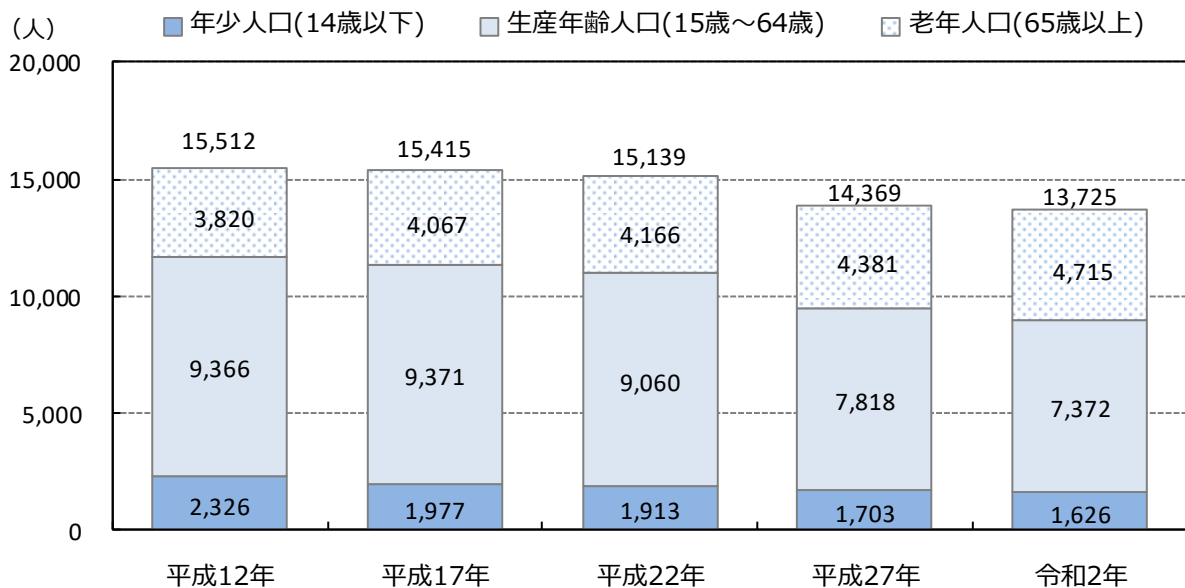
本節では、各種統計データ等を用いて山辺町を取り巻く状況を分析し、現状把握を行います。なお、各種統計データについては、計画策定時点における最新データを用い掲載しています。

1 人口・高齢化率・世帯の状況

(1) 人口の推移

平成12年以降の本町の人口は、平成22年までは緩やかに減少していましたが、平成22年から令和2年にかけて減少が大きくなっています。

■人口の推移



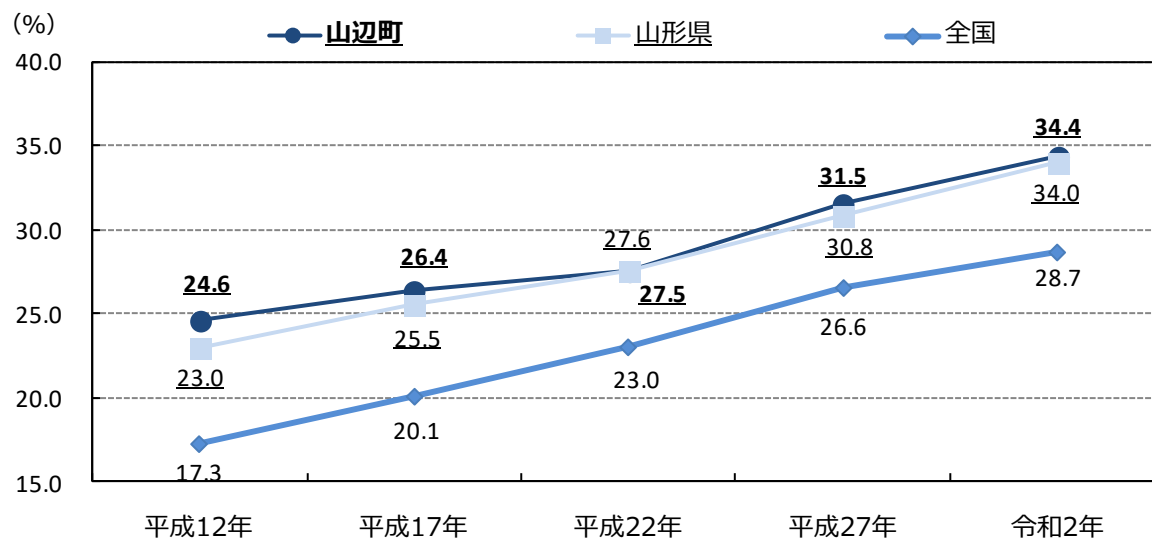
出典：国勢調査（各年10月1日現在）

※平成27年・令和2年の総人口は年齢不詳を含むため、各年齢区分別の合計値が不一致となっています。

(2) 高齢化率の推移

高齢化率をみると、年々増加しており、令和2年では34.4%となっています。

■ 高齢化率の推移



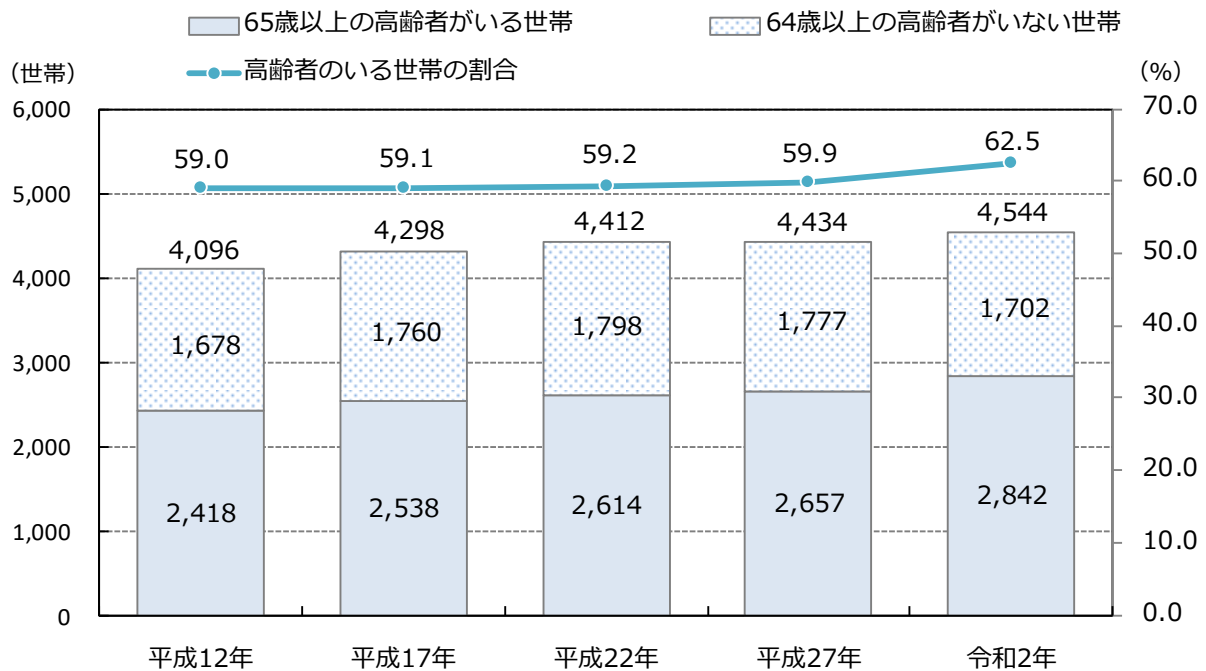
出典：国勢調査（各年10月1日現在）

※平成27年・令和2年の高齢化率は年齢不詳を除いて計算しています。

(3) 世帯数の推移

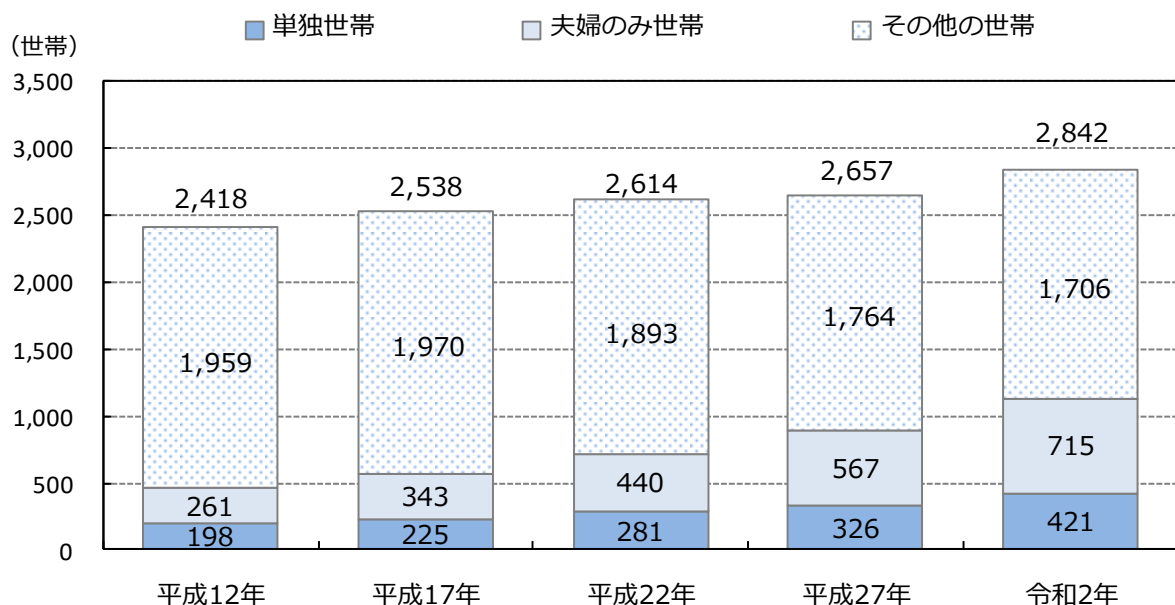
65歳以上の高齢者のいる一般世帯数は2,842世帯(令和2年10月現在)で、一般世帯数(4,544世帯)に対する比率は62.5%です。高齢者のいる世帯の家族累計別にみると、「単独世帯」「夫婦のみの世帯」が増加しています。

■65歳以上の高齢者のいる世帯の推移



出典：国勢調査（各年10月1日現在）

■65歳以上の高齢者のいる一般世帯の家族累計別比率の比較



出典：国勢調査（各年10月1日現在）

2 学校・学級・児童・生徒・教職員数

(1) 小学校の学級・児童・教職員数

小学校の児童数は減少傾向にあり、令和3年度では683人（平成29年度に比べ103人減）となっています。

■小学校の学級・児童・教職員数（単位：校、学級、人）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
学校数	4	4	3	3	2
学級数	41	42	37	34	33
児童数	786	766	745	723	683
男	385	373	365	358	362
女	401	393	380	365	321
教員数	60	63	53	49	51
男	24	26	21	20	21
女	36	37	32	29	30
職員数	8	8	6	5	4
男	3	3	2	3	3
女	5	5	4	2	1
1学級あたり児童数	19.2	18.2	20.1	21.3	20.7
教員1人あたり児童数	13.1	12.2	14.1	14.8	13.4

出典：学校基本調査（各年5月1日現在）

(2) 中学校の学級・生徒・教職員数

中学校の生徒数は横ばい傾向にあり、令和3年度では410人（平成29年度に比べ18人増）となっています。

■中学校の学級・生徒・教職員数（単位：校、学級、人）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
学校数	2	2	2	2	1
学級数	18	17	18	19	17
生徒数	392	398	387	410	410
男	199	205	205	213	195
女	193	193	182	197	215
教員数	36	34	34	36	31
男	20	20	21	22	19
女	16	14	13	14	12
職員数	6	7	7	7	9
男	2	2	2	3	2
女	4	5	5	4	7
1学級あたり生徒数	21.8	23.4	21.5	21.6	24.1
教員1人あたり生徒数	10.9	11.7	11.4	11.4	13.2

出典：学校基本調査（各年5月1日現在）

第2節 スポーツ施設やイベント、団体からみる現状

本節では、体育施設の利用状況やスポーツ関連団体の活動状況を用いて山辺町を取り巻く状況を分析し、現状把握を行います。

1 体育施設の利用状況

(1) 体育施設の利用状況

体育施設の利用者の総数は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、令和2年度では45,947人（平成28年度に比べ19,806人減）となっています。町民総合体育館や野球場などでは、町外の方の施設利用が増えている状況となっています。

■体育施設の利用状況（単位：人）

施設名	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
町民総合体育館	22,940	23,800	25,916	35,990	20,587
町内	14,269	13,218	13,543	19,115	10,116
町外	8,671	10,582	12,373	16,875	10,471
町民グラウンド	4,237	3,466	4,527	5,027	1,922
町内	1,510	457	929	2,610	236
町外	2,727	3,009	3,598	2,417	1,686
テニスコート	15,631	15,554	14,672	12,230	7,490
町内	14,442	14,064	13,687	10,426	5,896
町外	1,189	1,490	985	1,804	1,594
野球場	4,718	4,143	4,148	5,525	7,713
町内	1,360	832	1,190	2,510	3,580
町外	3,358	3,311	2,958	3,015	4,133
武道館	8,165	9,562	8,599	10,761	3,415
町内	3,765	5,152	5,209	6,442	3,104
町外	4,400	4,410	3,390	4,319	311
屋内ゲートボール場	10,062	9,905	8,016	6,438	4,820
町内	8,537	8,473	8,016	5,259	1,159
町外	1,525	1,432	2,094	1,179	3,661
総数	65,753	66,430	65,878	75,881	45,947
町内	43,883	42,196	40,480	46,272	24,091
町外	21,870	24,234	25,398	29,609	21,856

出典：教育委員会（各年4月～翌年3月）

2 スポーツ関連団体の活動状況

(1) 総合型地域スポーツクラブ※¹（山辺の里スポーツクラブ）

総合型地域スポーツクラブ（山辺の里スポーツクラブ）では、10 スクール、3 サークル、11 イベント教室を実施しています。

■山辺の里スポーツクラブ会員数（単位：人）

	令和元年度	令和2年度
子ども（中学生まで）	239	183
高校生	0	2
大人	204	140
合計	443（ファミリー会員 14 家族）	325（ファミリー会員 5 家族）

出典：山辺の里スポーツクラブ事業報告（令和2年度）

■スクールの団員数（単位：人）

単位スポーツ少年団※ ² 名	活動日	活動場所	団員数
鶴陵剣道	火・金	町武道館	34
こづるバレーボール	月・第2.4金・ 第1.3.5土・水	山辺小体育館・ 旧大寺小体育館	9
山辺柔道	水・土	町武道館	18
山辺ミニバスケットボール	火・水・土・第3除く日	山辺小体育館	26
山辺野球	日・水・土	山辺小グラウンド	20
山辺ソフトテニス	日・火・木	町民テニスコート	23
相模バレーボール	月・木・土	相模小体育館	11
作谷沢卓球	水	作谷沢小中体育館	2
山辺FC ジュニア	日・木・土	山辺小・相模小・旧大寺 小グラウンド・体育館	38
山辺卓球	月・土	旧大寺小体育館	3

出典：山辺の里スポーツクラブ事業報告（令和2年度）

■サークルの参加数（単位：人）

サークル名	活動日	活動場所	参加者
山辺テニスサークル	日	町民テニスコート・ 屋内ゲートボール場	11
気軽にさわやかスポーツサークル	木	町民総合体育館アリーナ	37
山辺の里ベースボールサークル	2年度休止		

出典：山辺の里スポーツクラブ事業報告（令和2年度）

※1 総合型地域スポーツクラブ

総合型地域スポーツクラブとは、人々が身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブを指します。

※2 スポーツ少年団

スポーツ少年団とは、スポーツを通じて、青少年の健全育成を目的とする社会教育団体を指します。

■ イベント教室参加者数（単位：人）

教室名	活動日	活動場所	指導者	参加者
やさしい エアロビクス教室	7月1日～ 第1・2・3水曜日 (全33回のうち6回休止)	町民総合体育館 トレーニングルーム	1名	13名 (うち会員 以外2名)
3B体操※ ¹	7月3日～ 毎週金曜日 (全44回のうち8回休止)	町民総合体育館 幼児高齢者室	1名	12名
ヨーガ教室	2年度休止			
フラフィットネス 教室	7月2日～ 毎週木曜日 (全44回のうち8回休止)	山辺町中央公民館	1名	21名
健美操教室	7月14日～ 第2・4火曜日 (全24回のうち6回休止)	山辺町中央公民館	1名	13名
山形神室岳 トレッキング	10月4日(日)	ハマグリ山・ トンガリ山・ 山形神室岳	1名	17名 (うち会員 以外13名)
星ふるロードを 歩こう	10月15日～ 11月19日(木曜日6回)	中央公園周辺	1名	11名 (うち会員 7名)
キッズスポーツ 教室	10月28日～ 11月11日(水曜日3回)	町民総合体育館 アリーナ	2名	23名 (うち会員 以外23名)
ティーボール※ ² 体験会	11月8日(日曜日)	山辺町民野球場	1名	9名 (うち会員 以外9名)
ウィンター スポーツ教室	2年度中止			
指導者研修会	11月26日(木曜日)	山辺町中央公民館	1名	35名

出典：山辺の里スポーツクラブ事業報告（令和2年度）

※1 3B体操

3B体操とは、ボール・ベル・ベルダーを使用しながら、誰もが無理なく楽しむことができる体操を指します。

※2 ティーボール

ティーボールとは、投手を置かずに本塁プレート後方に設けられたバッティング・ティー上のボールを打つ野球やソフトボールに似た10人対10人で行うスポーツを指します。

第3節 町民へのアンケート調査結果からみる現状

町民に対して、スポーツ推進に係る現状分析や課題の整理を行うための調査を実施しました。

■町民への調査

項目	内容
対象者	16歳以上の町民800名
対象地域	山辺町全域
対象者の選定方法	住民基本台帳から無作為抽出
調査期間	令和3年7月7日～7月26日
調査方法	郵送調査

■アンケート結果の見方

- * n (number of cases) は比率算出の基数であり、100.0%が何人の回答に相当するかを表しています。
- * 回答の構成比は百分率であらわし、小数点第2位を四捨五入して算出しています。したがって、単一回答形式の質問においては、回答比率を合計しても100.0%にならない場合があります。また、回答者が2つ以上の回答をすることができる複数回答形式の質問においては、各設問の調査数を基数として算出するため、すべての選択肢の比率を合計すると100.0%を超える場合があります。

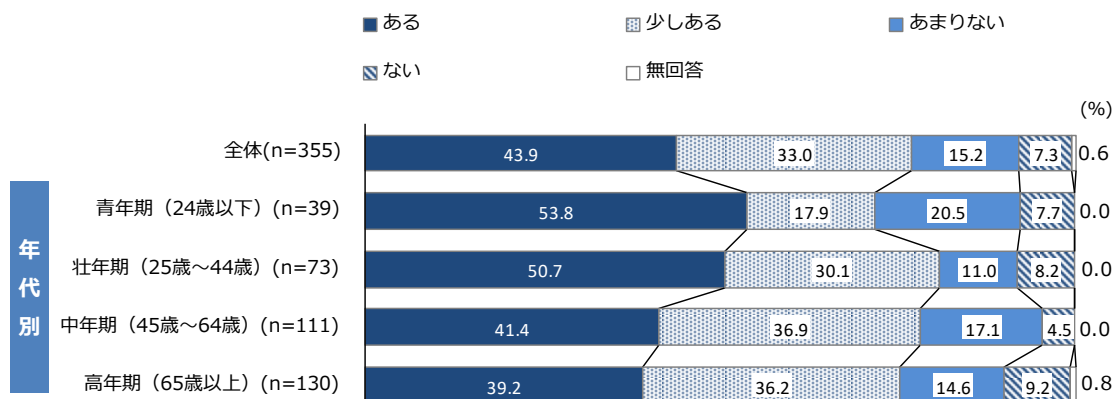
1 運動やスポーツの現在の実施状況

(1) 運動やスポーツへの関心

運動やスポーツへの関心について、全体では「ある」(43.9%)と「少しある」(33.0%)を合わせた『運動やスポーツに関心のある方』は76.9%、「ない」(7.3%)と「あまりない」(15.2%)を合わせた『運動やスポーツに関心のない方』は22.5%となっています。

年代別にみると、青年期(24歳以下)・壮年期(25歳～44歳)・中年期(45歳～64歳)・高年期(65歳以上)のどの年代でも『運動やスポーツに関心のある方』が7～8割となっています。

■運動やスポーツへの関心

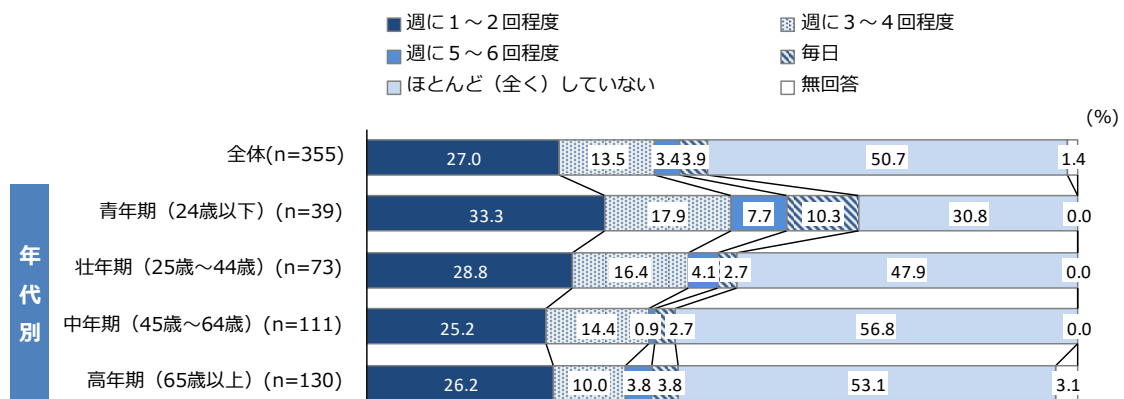


(2) この1年間に運動・スポーツを行った頻度

この1年間に運動・スポーツを行った頻度について、全体では「ほとんど(全く)していない」が50.7%と最も多く、次いで「週に1～2回程度」(27.0%)となっています。

年代別にみると、青年期(24歳以下)・壮年期(25歳～44歳)・中年期(45歳～64歳)・高年期(65歳以上)のどの年代でも「週1～2回程度」で実施している方が2～3割となっていますが、「ほとんど(全く)していない」と回答した方は年齢が高くなるにつれて多くなり、中年期(45歳～64歳)・高年期(65歳以上)の半数以上は、この1年間にほとんど(全く)運動をしていない方となっています。

■この1年間に運動・スポーツを行った頻度



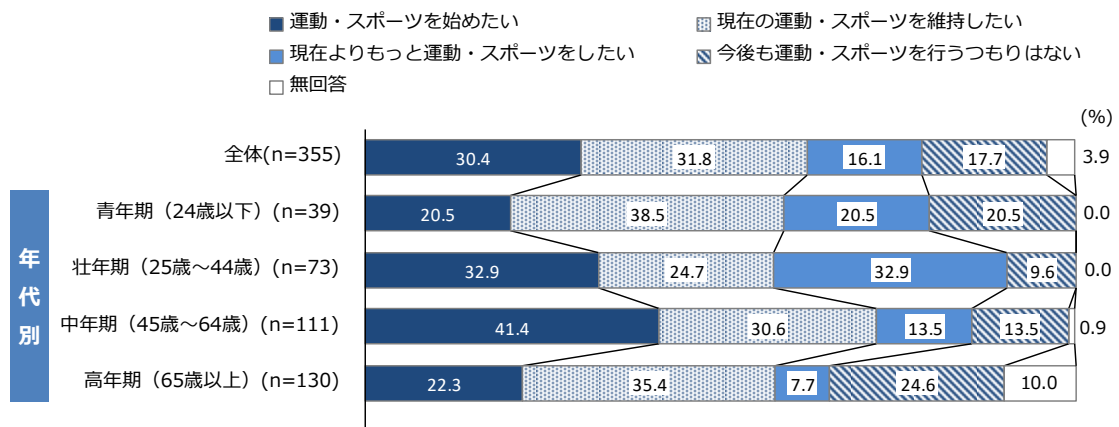
2 運動やスポーツの今後の実施意向

(1) 今後の運動・スポーツの実施意向

今後の運動・スポーツの実施意向について、全体では「現在の運動・スポーツを維持したい」が31.8%と最も多く、次いで「運動・スポーツを始めたい」(30.4%)、「今後も運動・スポーツを行うつもりはない」(17.7%)、「現在よりもっと運動・スポーツをしたい」(16.1%)となっています。

年代別にみると、青年期(24歳以下)では「現在の運動・スポーツを維持したい」が38.5%と最も多く、壮年期(25歳～44歳)では「運動・スポーツを始めたい」「現在よりもっと運動・スポーツをしたい」(ともに32.9%)、中年期(45歳～64歳)では「運動・スポーツを始めたい」(41.4%)、高年期(65歳以上)では「現在の運動・スポーツを維持したい」(35.4%)が最も多くなっています。

■今後の運動・スポーツの実施意向



(2) 今後行ってみたい運動・スポーツ

今後行ってみたい運動・スポーツについて、全体では「ウォーキング」が40.0%と最も多く、次いで「ヨガ・ストレッチ・体操」(33.8%)、「室内トレーニング」(18.9%)、「登山・ハイキング」(18.3%)、水泳(15.8%)となっています。

年代別にみると、青年期(24歳以下)では「サイクリング」「バドミントン」「ランニング」、壮年期(25歳～44歳)では「ヨガ・ストレッチ・体操」「ウォーキング」「ランニング」、中年期(45歳～64歳)では「ヨガ・ストレッチ・体操」「ウォーキング」「登山・ハイキング」、高年期(65歳以上)では「ウォーキング」「ヨガ・ストレッチ・体操」「室内トレーニング」が上位3位となっています。

■今後行ってみたい運動・スポーツ

		調査数	1位	2位	3位	4位	5位
全体		355	ウォーキング (40.0%)	ヨガ・ストレッチ・ 体操(33.8%)	室内トレーニング (18.9%)	登山・ハイキング (18.3%)	水泳 (15.8%)
年代別	青年期 (24歳以下)	39	サイクリング (30.8%)	バドミントン (28.2%)	ランニング (23.1%)	ヨガ・ストレッチ・ 体操(20.5%)	-
	壮年期 (25歳～44歳)	73	ヨガ・ストレッチ・ 体操(42.5%)	ウォーキング (32.9%)	ランニング (24.7%)	水泳 (21.9%)	室内トレーニング (20.5%)
	中年期 (45歳～64歳)	111	ヨガ・ストレッチ・ 体操(49.5%)	ウォーキング (45.9%)	登山・ハイキング (23.4%)	水泳 (20.7%)	室内トレーニング (18.9%)
	高年期 (65歳以上)	130	ウォーキング (48.5%)	ヨガ・ストレッチ・体操(20.0%) 室内トレーニング(20.0%)		登山・ハイキング (16.2%)	水泳 (11.5%)

(3) もっと運動・スポーツを行うための条件

もっと運動・スポーツを行うための条件について、全体では「身近に施設や活動場所があれば」が39.7%と最も多く、次いで「気軽に参加できる教室があれば」(34.6%)、「一緒に行く仲間がいれば」(31.5%)、「健康づくりやスポーツの情報が提供されれば」(15.2%)、「冬でも暖かい施設があれば」(14.9%)となっています。

年代別にみると、青年期(24歳以下)では「身近に施設や活動場所があれば」「一緒に行く仲間がいれば」「施設利用料が減額されれば」が上位3位となっており、壮年期(25歳～44歳)・中年期(45歳～64歳)・高年期(65歳以上)では「身近に施設や活動場所があれば」「一緒に行く仲間がいれば」「気軽に参加できる教室があれば」が上位3位となっています。

■もっと運動・スポーツを行うための条件

		調査数	1位	2位	3位	4位	5位
全体		355	身近に施設や活動場所があれば (39.7%)	気軽に参加できる教室があれば (34.6%)	一緒に行く仲間がいれば (31.5%)	健康づくりやスポーツの情報が提供されれば (15.2%)	冬でも暖かい施設があれば (14.9%)
年代別	青年期 (24歳以下)	39	身近に施設や活動場所があれば(48.7%) 一緒に行く仲間がいれば(48.7%)		施設利用料が減額されれば (28.2%)	様々なスポーツができるならば (15.4%)	気軽に参加できる教室があれば (12.8%)
	壮年期 (25歳～44歳)	73	身近に施設や活動場所があれば (50.7%)	一緒に行く仲間がいれば (32.9%)	気軽に参加できる教室があれば (31.5%)	冬でも暖かい施設があれば (20.5%)	-
	中年期 (45歳～64歳)	111	気軽に参加できる教室があれば (42.3%)	身近に施設や活動場所があれば (40.5%)	一緒に行く仲間がいれば (29.7%)	健康づくりやスポーツの情報が提供されれば (21.6%)	冬でも暖かい施設があれば (13.5%)
	高年期 (65歳以上)	130	気軽に参加できる教室があれば (36.2%)	身近に施設や活動場所があれば (29.2%)	一緒に行く仲間がいれば (26.9%)	冬でも暖かい施設があれば (14.6%)	健康づくりやスポーツの情報が提供されれば (13.8%)

3 総合型地域スポーツクラブ（山辺の里スポーツクラブ）について

(1) 山辺の里スポーツクラブの認知度・参加経験

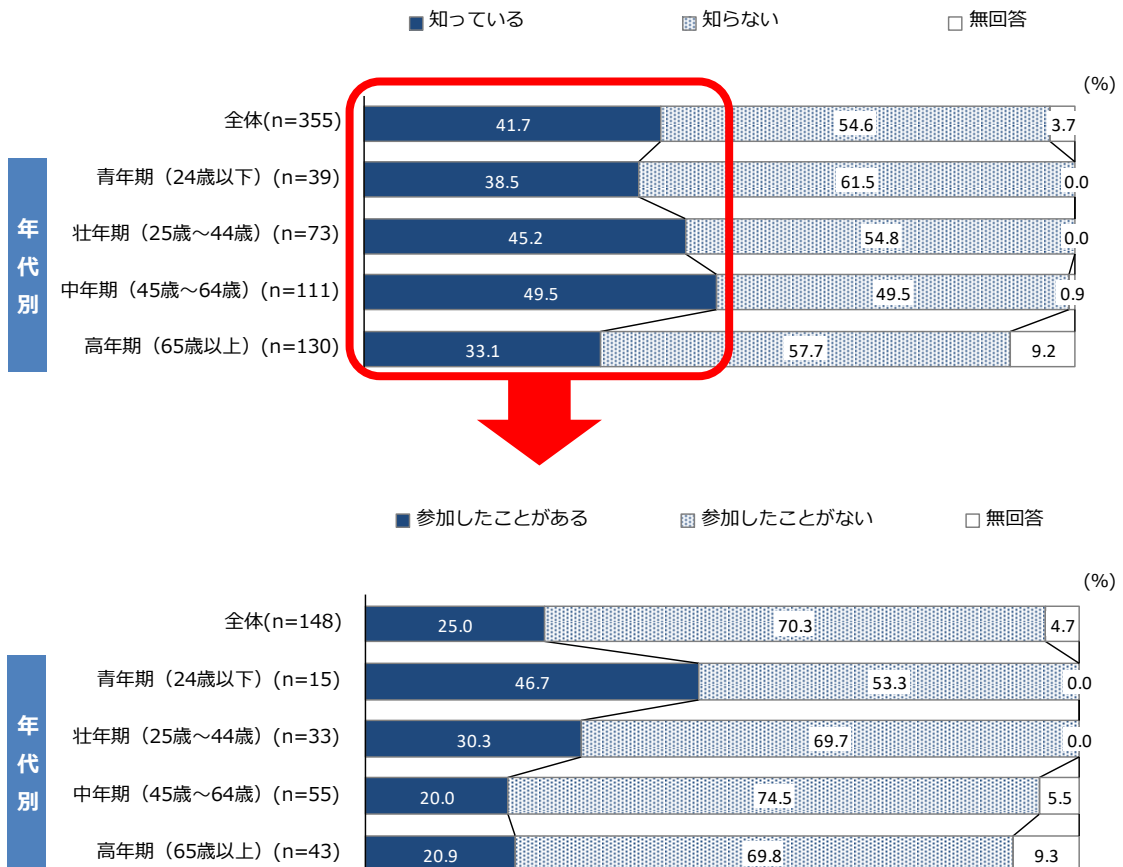
山辺の里スポーツクラブの認知度について、全体では「知らない」は 54.6%、「知っている」は 41.7%となっています。

年代別にみると、年齢が高くなるにつれて、認知度も高くなる傾向となっていますが、高年期（65歳以上）では「知っている」が 33.1%と他の年代に比べ少なくなっています。

山辺の里スポーツクラブへの参加経験について、全体では「参加したことがない」は 70.3%、「参加したことがある」は 25.0%となっています。

年代別にみると、青年期（24歳以下）・壮年期（25歳～44歳）の方が「参加したことがある」と回答した方は多くなっています。

■山辺の里スポーツクラブの認知度・参加経験



(2) 山辺の里スポーツクラブに参加したことがない理由

山辺の里スポーツクラブに参加したことがない理由について、全体では「参加する時間がないから」が42.3%と最も多く、次いで「参加したいスポーツ種目がないから」(25.0%)、「どのような活動をしているか知らないから」(16.3%)となっています。

年代別にみると、青年期(24歳以下)では「どのような活動をしているか知らないから」、壮年期(25歳～44歳)・中年期(45歳～64歳)では「参加する時間がないから」、高年期(65歳以上)では「参加したいスポーツ種目がないから」が参加したことがない理由の1位となっています。

■山辺の里スポーツクラブに参加したことがない理由

		調査数	1位	2位	3位
全体		104	参加する時間がないから (42.3%)	参加したいスポーツ 種目がないから (25.0%)	どのような活動をして いるか知らないから (16.3%)
年代別	青年期 (24歳以下)	8	どのような活動をして いるか知らないから (37.5%)	参加する時間がないから (25.0%)	-
	壮年期 (25歳～44歳)	23	参加する時間がないから (47.8%)	どのような活動をして いるか知らないから (26.1%)	参加したいスポーツ 種目がないから (21.7%)
	中年期 (45歳～64歳)	41	参加する時間がないから (56.1%)	参加したいスポーツ 種目がないから (26.8%)	一緒に参加する 仲間がないから (14.6%)
	高年期 (65歳以上)	30	参加したいスポーツ 種目がないから (26.7%)	参加する時間がないから(20.0%) どのような活動をしているか知らないから(20.0%) 一緒に参加する仲間がないから(20.0%)	

(3) 山辺の里スポーツクラブで今後参加してみたい活動

山辺の里スポーツクラブで今後参加してみたい活動について、全体では「教室（体操、ヨガ、ダンス等）」が25.6%と最も多く、次いで「イベント（スケート、ハイキング等）」（11.0%）、「スポーツサークル（テニス、バドミントン等）」（9.0%）となっています。

年代別にみると、青年期（24歳以下）では「イベント（スケート、ハイキング等）」、壮年期（25歳～44歳）・中年期（45歳～64歳）・高年期（65歳以上）では「教室（体操、ヨガ、ダンス等）」が今後参加してみたい活動の1位となっています。

■山辺の里スポーツクラブで今後参加してみたい活動

		調査数	1位	2位	3位
全体		355	教室 【体操、ヨガ、ダンス等】 (25.6%)	イベント 【スケート、ハイキング等】 (11.0%)	スポーツサークル 【テニス、バドミントン等】 (9.0%)
年代別	青年期 (24歳以下)	39	イベント 【スケート、ハイキング等】 (15.4%)	スポーツサークル 【テニス、バドミントン等】 (12.8%)	教室 【体操、ヨガ、ダンス等】 (7.7%)
	壮年期 (25歳～44歳)	73	教室 【体操、ヨガ、ダンス等】 (32.9%)	スポーツサークル 【テニス、バドミントン等】 (16.4%)	イベント 【スケート、ハイキング等】 (12.3%)
	中年期 (45歳～64歳)	111	教室 【体操、ヨガ、ダンス等】 (34.2%)	イベント 【スケート、ハイキング等】 (12.6%)	スポーツサークル 【テニス、バドミントン等】 (7.2%)
	高年期 (65歳以上)	130	教室 【体操、ヨガ、ダンス等】 (20.0%)	イベント 【スケート、ハイキング等】 (7.7%)	スポーツサークル 【テニス、バドミントン等】 (3.8%)

4 スポーツボランティア※について

(1) この1年間のスポーツボランティア活動の経験・参加したいと思うきっかけ

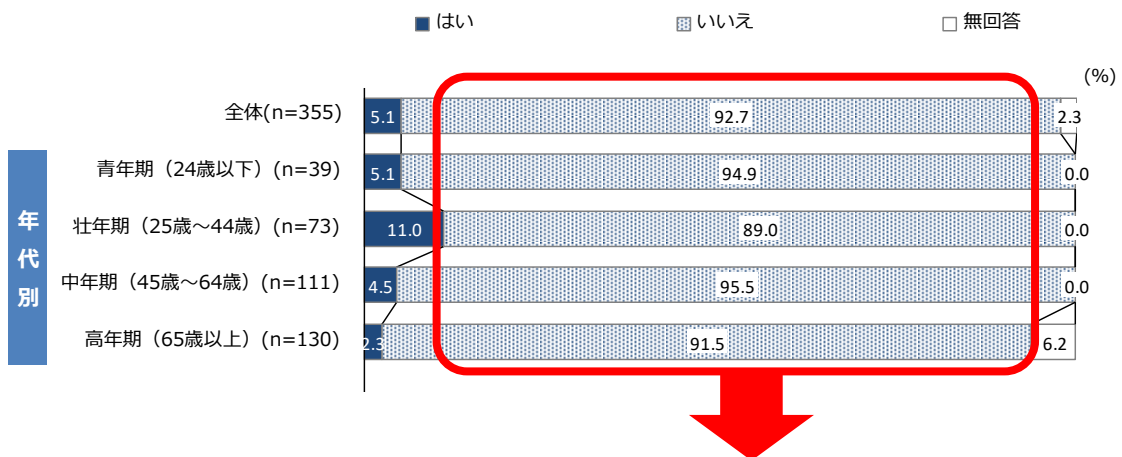
この1年間にスポーツボランティア活動を行ったかについて、全体では「はい」と回答した方は5.1%、「いいえ」と回答した方は92.7%となっています。

年代別にみると、壮年期（25歳～44歳）では「はい」が11.0%と他の年代に比べて多くなっています。

どのようなきっかけがあればボランティア活動がしたいかについて、全体では「好きなスポーツの普及・支援」が18.8%と最も多く、次いで「出会い・交流の場」(15.8%)、「社会貢献」(14.9%)となっています。

年代別にみると、青年期（24歳以下）では「好きなスポーツの普及・支援」、壮年期（25歳～44歳）では「好きなスポーツの普及・支援」「その大会・クラブ等への家族・友人の参加」、中年期（45歳～64歳）では「社会貢献」、高年期（65歳以上）では「出会い・交流の場」がボランティア活動に参加したいと思うきっかけの1位となっています。

■この1年間のスポーツボランティア活動の経験・参加したいと思うきっかけ



		調査数	1位	2位	3位	4位	5位
全体		329	好きなスポーツの普及・支援 (18.8%)	出会い・交流の場 (15.8%)	社会貢献 (14.9%)	地域での居場所・役割・生きがい (14.0%)	その大会・クラブ等への家族・友人の参加 (13.4%)
年代別	青年期 (24歳以下)	37	好きなスポーツの普及・支援 (32.4%)	出会い・交流の場 (18.9%)	社会貢献 (13.5%) 地域での居場所・役割・生きがい (13.5%)		その大会・クラブ等への家族・友人の参加 (10.8%)
	壮年期 (25歳～44歳)	65	好きなスポーツの普及・支援 (27.7%) その大会・クラブ等への家族・友人の参加 (27.7%)	地域での居場所・役割・生きがい (20.0%)	社会貢献 (16.9%)	出会い・交流の場 (15.4%)	
	中年期 (45歳～64歳)	106	社会貢献 (17.9%)	好きなスポーツの普及・支援 (17.0%)	出会い・交流の場 (16.0%)	地域での居場所・役割・生きがい (13.2%) その大会・クラブ等への家族・友人の参加 (13.2%)	
	高年期 (65歳以上)	119	出会い・交流の場 (13.4%)	好きなスポーツの普及・支援 (11.8%) 社会貢献 (11.8%)	地域での居場所・役割・生きがい (10.1%)	その大会・クラブ等への家族・友人の参加 (6.7%)	

※ スポーツボランティア

スポーツボランティアとは、地域におけるスポーツクラブやスポーツ団体において、報酬を目的としないで、クラブ・団体の運営や指導活動を日常的に支えたり、また、国際競技大会や地域スポーツ大会などにおいて、専門的能力や時間などを進んで提供し、大会の運営を支える人のことを指します。

5 小中学生の競技力向上やスポーツ推進について

(1) 小学生の競技力向上やスポーツ推進に必要と思うこと

小学生の競技力向上やスポーツ推進に必要と思うことについて、全体では「地域のクラブを中心に選手の育成やスポーツの推進を図る必要がある」が42.5%と最も多く、次いで「民間のスポーツクラブを中心に選手の育成やスポーツの推進を図る必要がある」(27.3%)、「家庭を中心に選手の育成やスポーツの推進を図る必要がある」(22.5%)となっています。

年代別にみると、壮年期(25歳～44歳)を除き、全ての年代で、「地域のクラブを中心に選手の育成やスポーツの推進を図る必要がある」が1位となっています。

■小学生の競技力向上やスポーツ推進に必要と思うこと

		調査数	1位	2位	3位
全体		355	地域のクラブを中心に選手の育成を図る必要がある(42.5%)	民間のスポーツクラブを中心に選手の育成やスポーツの推進を図る必要がある(27.3%)	家庭を中心に選手の育成やスポーツの推進を図る必要がある(22.5%)
年代別	青年期(24歳以下)	39	地域のクラブを中心に選手の育成を図る必要がある(48.7%)	民間のスポーツクラブを中心に選手の育成やスポーツの推進を図る必要がある(20.5%) 家庭を中心に選手の育成やスポーツの推進を図る必要がある(20.5%)	
	壮年期(25歳～44歳)	73	民間のスポーツクラブを中心に選手の育成やスポーツの推進を図る必要がある(38.4%)	地域のクラブを中心に選手の育成を図る必要がある(35.6%)	家庭を中心に選手の育成やスポーツの推進を図る必要がある(32.9%)
	中年期(45歳～64歳)	111	地域のクラブを中心に選手の育成を図る必要がある(50.5%)	民間のスポーツクラブを中心に選手の育成やスポーツの推進を図る必要がある(27.9%)	家庭を中心に選手の育成やスポーツの推進を図る必要がある(17.1%)
	高年期(65歳以上)	130	地域のクラブを中心に選手の育成を図る必要がある(36.9%)	民間のスポーツクラブを中心に選手の育成やスポーツの推進を図る必要がある(21.5%) 家庭を中心に選手の育成やスポーツの推進を図る必要がある(21.5%)	

(2) 中学生の競技力向上やスポーツ推進に必要と思うこと

中学生の競技力向上やスポーツ推進に必要と思うことについて、全体では「学校の部活動を中心に選手の育成やスポーツの推進を図る必要がある」が43.4%と最も多く、次いで「地域のクラブを中心に選手の育成やスポーツの推進を図る必要がある」(30.1%)、「民間のスポーツクラブを中心に選手の育成やスポーツの推進を図る必要がある」(23.4%)となっています。

年代別にみると、全ての年代で、「学校の部活動を中心に選手の育成やスポーツの推進を図る必要がある」が1位となっています。

■中学生の競技力向上やスポーツ推進に必要と思うこと

		調査数	1位	2位	3位
全体		355	学校の部活動を中心に選手の育成やスポーツの推進を図る必要がある(43.4%)	地域のクラブを中心に選手の育成を図る必要がある(30.1%)	民間のスポーツクラブを中心に選手の育成やスポーツの推進を図る必要がある(23.4%)
年代別	青年期(24歳以下)	39	学校の部活動を中心に選手の育成やスポーツの推進を図る必要がある(59.0%)	地域のクラブを中心に選手の育成を図る必要がある(23.1%) 家庭を中心に選手の育成やスポーツの推進を図る必要がある(23.1%)	
	壮年期(25歳～44歳)	73	学校の部活動を中心に選手の育成やスポーツの推進を図る必要がある(43.8%)	民間のスポーツクラブを中心に選手の育成やスポーツの推進を図る必要がある(37.0%)	地域のクラブを中心に選手の育成を図る必要がある(31.5%)
	中年期(45歳～64歳)	111	学校の部活動を中心に選手の育成やスポーツの推進を図る必要がある(39.6%)	地域のクラブを中心に選手の育成を図る必要がある(34.2%)	民間のスポーツクラブを中心に選手の育成やスポーツの推進を図る必要がある(30.6%)
	高年期(65歳以上)	130	学校の部活動を中心に選手の育成やスポーツの推進を図る必要がある(40.8%)	地域のクラブを中心に選手の育成を図る必要がある(26.9%)	家庭を中心に選手の育成やスポーツの推進を図る必要がある(18.5%)

6 スポーツ施設について

(1) 町内の公共スポーツ施設に望むこと

町内の公共スポーツ施設に望むことについて、全体では「身近で利用できるよう、施設数の増加」が19.2%と最も多く、次いで「利用手続き、料金の支払い方法などの簡略化」(18.3%)、「使用料金の値下げ」(14.6%)となっています。

年代別にみると、青年期(24歳以下)・中年期(45歳～64歳)では「利用手続き、料金の支払い方法などの簡略化」、壮年期(25歳～44歳)・高年期(65歳以上)では「身近で利用できるよう、施設数の増加」が1位となっています。

■町内の公共スポーツ施設に望むこと

		調査数	1位	2位	3位	4位	5位
全体		355	身近で利用できるよう、施設数の増加(19.2%)	利用手続き、料金の支払い方法などの簡略化(18.3%)	使用料金の値下げ(14.6%)	利用時間の拡大(早朝、夜間)(11.5%)	空調の設置(9.3%)
年代別	青年期(24歳以下)	39	利用手続き、料金の支払い方法などの簡略化(25.6%)	身近で利用できるよう、施設数の増加(20.5%)	使用料金の値下げ(17.9%)	利用時間の拡大(早朝、夜間)(10.3%) 空調の設置(10.3%)	
	壮年期(25歳～44歳)	73	身近で利用できるよう、施設数の増加(31.5%)	利用手続き、料金の支払い方法などの簡略化(23.3%)	使用料金の値下げ(19.2%)	利用時間の拡大(早朝、夜間)(15.1%)	空調の設置(11.0%)
	中年期(45歳～64歳)	111	利用手続き、料金の支払い方法などの簡略化(23.4%)	使用料金の値下げ(14.4%)	身近で利用できるよう、施設数の増加(12.6%)	利用時間の拡大(早朝、夜間)(11.7%)	空調の設置(10.8%) 指導者の配置(10.8%)
	高年期(65歳以上)	130	身近で利用できるよう、施設数の増加(17.7%)	使用料金の値下げ(10.0%)	利用手続き、料金の支払い方法などの簡略化(8.5%) 利用時間の拡大(早朝、夜間)(8.5%)		空調の設置(6.2%)

(2) 町内に欲しいスポーツ施設

町内に欲しいスポーツ施設について、全体では「室内トレーニング場・フィットネス施設」が41.7%と最も多く、次いで「野外活動施設」(22.8%)、「多目的広場」(20.6%)となっています。

年代別にみると、全ての年代で、「室内トレーニング場・フィットネス施設」が1位となっています。

■町内に欲しいスポーツ施設

		調査数	1位	2位	3位
全体		355	室内トレーニング場・フィットネス施設(41.7%)	野外活動施設(22.8%)	多目的広場(20.6%)
年代別	青年期(24歳以下)	39	室内トレーニング場・フィットネス施設(41.0%)	ボルダリング施設(23.1%) サッカー、ラグビーなどの専用競技場(23.1%)	
	壮年期(25歳～44歳)	73	室内トレーニング場・フィットネス施設(58.9%)	多目的広場(27.4%)	野外活動施設(24.7%) ボルダリング施設(24.7%)
	中年期(45歳～64歳)	111	室内トレーニング場・フィットネス施設(47.7%)	野外活動施設(23.4%)	多目的広場(18.0%)
	高年期(65歳以上)	130	室内トレーニング場・フィットネス施設(26.2%)	野外活動施設(23.1%)	多目的広場(19.2%)

第4節 関係団体へのアンケート調査結果からみる現状

関係団体に対して、スポーツ推進に係る現状分析や課題の整理を行うための調査を実施しました。

■関係団体への調査

項目	内容
対象者	町内でスポーツに関連する活動を行う団体(10 団体)
調査期間	令和3年 10 月 22 日～11 月5日
調査方法	郵送調査

■アンケート結果の見方

- *本アンケート調査結果については、対象者数が少ないことから、回答のあった団体数を表記しています。
- *回答者が2つ以上の回答をすることができる複数回答形式の質問においては、すべての選択肢の回答数を合計すると、調査数を超える場合があります。

1 団体活動における困りごとや今後の活動方針、町に力を入れてほしいこと

(1) 団体活動において困っていること

団体活動において困っていることについて、「新しい参加者が増えない」が5団体と最も多く、次いで「指導者がいない(少ない)」(4団体)、「日常的に利用できる施設が少ない」「日常的に利用できる施設があまりよくない」(ともに3団体)となっています。

■団体活動において困っていること

	調査数	1位	2位	3位	4位	5位
全体	8	新しい参加者が増えない (5団体)	指導者がいない (少ない) (4団体)	日常的に利用できる施設が少ない(3団体) 日常的に利用できる施設があまり良くない (3団体)		活動がマンネリ化し、 組織に活気がなくなり つつある(1団体)

(2) 団体活動において今後力を入れていくこと

団体活動において今後力を入れていくことについて、「新しい参加者の増加」「指導者の育成・確保・後継」「団体の活動内容の充実」(ともに5団体)が最も多くなっています。

■団体活動において今後力を入れていくこと

	調査数	1位	2位	3位	4位	5位
全体	8	新しい参加者の増加(5団体) 指導者の育成・確保・後継(5団体) 団体の活動内容の充実(5団体)			他団体との交流の機会 の増加(2団体)	団体の活動内容の情報 発信(1団体)

(3) スポーツ振興のために、町に力を入れてほしいこと

スポーツ振興のために、町に力を入れてほしいことについて、「競技力の向上に関する支援」が5団体と最も多く、次いで「公共スポーツ施設の整備」「スポーツ指導者・ボランティアの養成」(ともに4団体)となっています。

■スポーツ振興のために、町に力を入れてほしいこと

	調査数	1位	2位	3位	4位	5位
全体	8	競技力の向上に 関する支援 (5団体)	公共スポーツ施設の整備(4団体) スポーツ指導者・ボランティアの養成 (4団体)		地域のクラブやサークルの育成(2団体) 学校施設の開放・整備(2団体)	

第 3 章

計画の基本方針

第3章 計画の基本方針

第1節 基本理念

子どもから大人まで スポーツを通して みんながいきいきとつながるまち やまのべ

スポーツはコミュニケーションを促進する効果が高く、子どもたちを育てる環境づくりに寄与するため、スポーツの場や機会の提供等の環境づくりに取り組んでいくことが求められています。

また、平成23年8月に「スポーツ基本法」が施行され、平成27年10月にはスポーツ庁が設定されるなど、全国的にもスポーツの役割が注目されており、地域で育まれた優れた選手がスポーツを推進する好循環、健康や活力に満ちた長寿社会の実現への寄与、障がい者スポーツによるリハビリ、社会参加効果など、多様なスポーツの効果が着目されています。

本町では、最上位計画である「第5次山辺町総合計画」において、「みんながつながる 協働のまち やまのべ ～未来につなぐ 自慢のまち～」の基本理念の下、子どもから大人まで、地域住民同士が互いの価値を尊重し、関わり合いながら暮らす山辺の文化を大切にしています。また、これからの長寿社会を見据え、スポーツ等を通して自らの健康維持増進に取り組んでいます。

本計画においても、第5次山辺町総合計画の基本理念や大切にしている考え方に基づき、「子どもから大人まで スポーツを通して みんながいきいきとつながるまち やまのべ」を基本理念とし、スポーツの振興に取り組んでいきます。

第2節 基本目標

基本理念に基づき、以下の3つを基本目標として掲げます。

基本目標1 : 世代を超えて誰もが楽しめるスポーツの推進

町民の誰もが個々の年代や関心、ライフステージ等に応じて、自らの健康づくりを含め、生涯に渡りスポーツに親しむことのできる「スポーツ・イン・ライフ」の実現を目指し、日常的にスポーツを楽しみ、親しむ機会の充実、プロスポーツチームとの連携を図ります。生涯に渡りスポーツに親しむためには、幼児期や少年期における運動習慣の確立が重要であると考えられるため、個々の成長段階や個性に応じたスポーツ活動を学校や地域で推進します。

基本目標2 : 未来につながるスポーツ環境づくり

町民の誰もがスポーツに親しむことができる環境をつくるため、地域スポーツの担い手である総合型地域スポーツクラブ（山辺の里スポーツクラブ）やスポーツ関係団体等との連携を図ります。各団体を支える指導者・ボランティアの確保・育成・資質向上は、各団体の持続的な活動に向け重要であることから、指導者研修会等の機会により、支援を行います。また競技スポーツのレベルの向上は、地域スポーツの振興やアスリートキャリア*の形成、町内の競技人口の拡大につながることから、学校や地域での活動を通じた支援を図ります。

基本目標3 : スポーツ推進を支える公共施設の管理・運営

地域スポーツの推進を図るためには、スポーツをする公共施設の適正管理を行っていくことが重要です。町民のニーズを把握し、ニーズに応じた公共施設の管理・運営を行うことにより、地域スポーツの振興を図ります。

※ アスリートキャリア

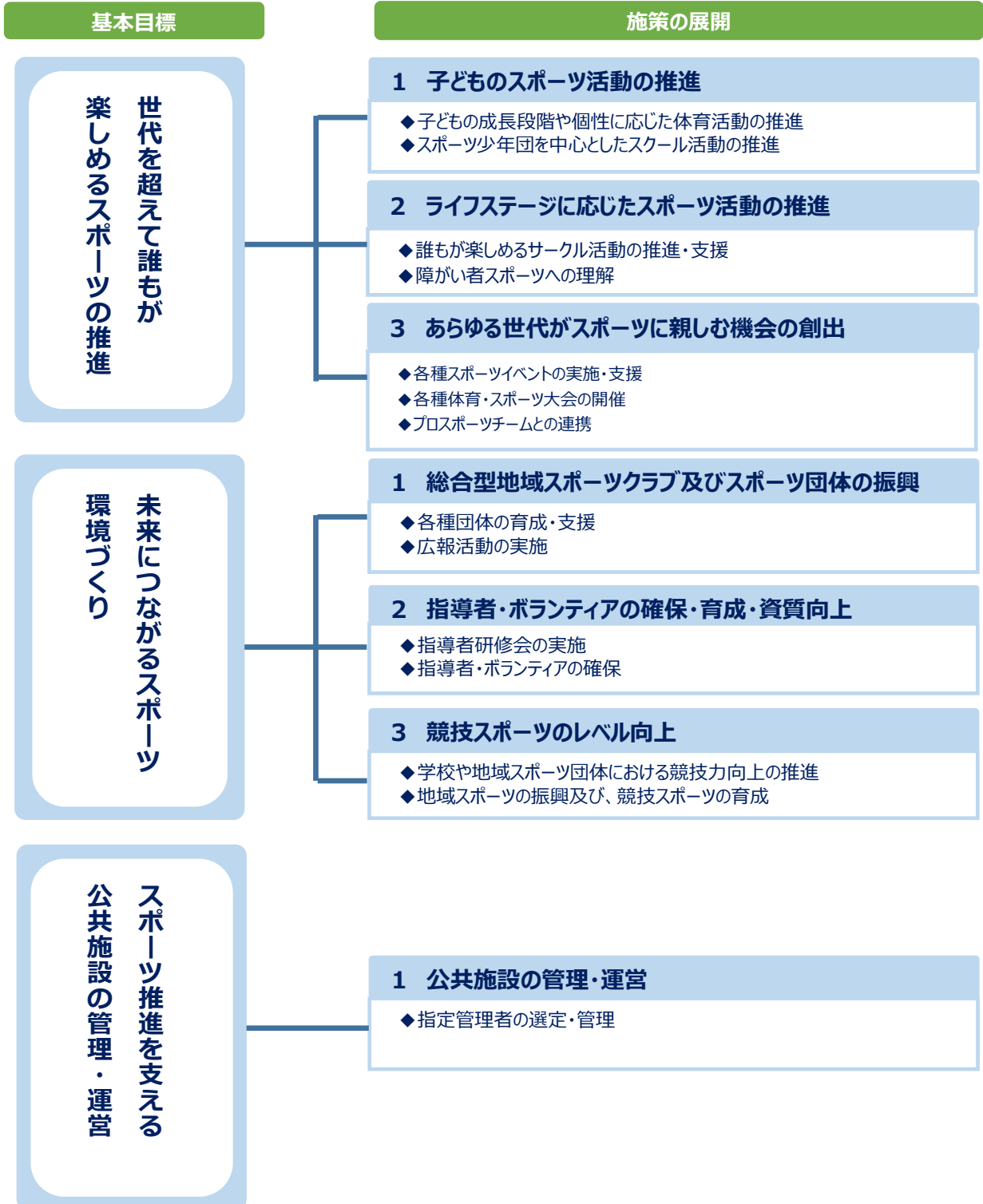
アスリートキャリアとは、スポーツ競技の選手としての職業・技能上の経験を指します。

第3節 計画の体系

本計画は、基本理念の達成に向けて、以下の施策を展開していきます。

基本理念

子どもから大人まで スポーツを通してみんながいいききとつながるまち やまのべ



第4章

施策の展開

第4章 施策の展開

第1節 世代を超えて誰もが楽しめるスポーツの推進

1 子どものスポーツ活動の推進

現状と課題

- 児童・生徒の運動習慣の確立と体力の向上を図るため、学校における体育活動や体育行事を実施しています。
- 地域でのスポーツ活動を推進するため、山辺の里スポーツクラブと連携し、スポーツ少年団等の子どものスポーツ活動の推進を行っています。
- 少子高齢化に伴う小学生の減少等により、山辺の里スポーツクラブの中学生までの子どもの会員数も、令和2年度では183人（令和元年度に比べ56人減）となっています。（P15）

施策の展開

- 子どもたちの運動習慣の確立と体力の向上を図るため、児童・生徒の成長段階や個性等にに応じた体育活動や体育行事を引き続き実施し、「スポーツ・イン・ライフ」の実現を図ります。
- 子どもたちが、地域で楽しみながらスポーツ活動ができるよう、引き続き山辺の里スポーツクラブと連携し、地域でのスポーツ活動の推進を図ります。
- 山辺の里スポーツクラブでは、団員に登録せずに、スクール活動の体験をすることができるビジター*利用も可能としているため、ビジター利用の制度も活用しながら、スクール活動への参加者の増加を図ります。

具体的な施策

◆子どもの成長段階や個性に応じた体育活動の推進

児童・生徒の個々の能力や個性を伸ばすため、一人一人の成長段階や個性に応じた指導内容とすることにより、体力・技術の向上を図ります。

◆スポーツ少年団を中心としたスクール活動の推進

山辺の里スポーツクラブにおいて、幼児や小学生、中学生を対象に、スポーツ少年団としての活動を中心に、剣道・バレーボール・柔道・バスケットボール・野球・ソフトテニス・卓球・サッカーなどの各種スクールを開催します。

※ ビジター

ビジターとは、会員制の施設や団体等、料金を支払って利用する会員以外の者を指します。

2 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

現状と課題

- 多レベル・多世代の方々が、様々なスポーツを楽しむことができるよう、山辺の里スポーツクラブを中心に、サークル活動を実施しています。
- 町民へのアンケート調査結果によると、この1年間に運動・スポーツを行った頻度は、青年期（24歳以下）・壮年期（25歳～44歳）・中年期（45歳～64歳）・高年期（65歳以上）のどの年代でも「週1～2回程度」で実施している方が2～3割となっていますが、「ほとんど（全く）していない」と回答した方は年齢が高くなるにつれて多くなり、中年期（45歳～64歳）・高年期（65歳以上）の半数以上は、この1年間にほとんど（全く）運動をしていない方となっています。（P18）
- 一方で、今後の運動・スポーツの実施意向では、青年期（24歳以下）では「現在の運動・スポーツを維持したい」が38.5%と最も多く、壮年期（25歳～44歳）では「運動・スポーツを始めたい」「現在よりもっと運動・スポーツをしたい」（ともに32.9%）、中年期（45歳～64歳）では「運動・スポーツを始めたい」（41.4%）、高年期（65歳以上）では「現在の運動・スポーツを維持したい」（35.4%）が最も多くなっています。（P19）
- もっと運動・スポーツを行うための条件では、青年期（24歳以下）では「身近に施設や活動場所があれば」「一緒に行く仲間がいれば」「施設利用料が減額されれば」が上位3位となっており、壮年期（25歳～44歳）・中年期（45歳～64歳）・高年期（65歳以上）では「身近に施設や活動場所があれば」「一緒に行く仲間がいれば」「気軽に参加できる教室があれば」が上位3位となっています。（P21）

施策の展開

- 町民総合体育館や町民テニスコートなど、身近な活動場所で、子どもから大人までの仲間と一緒に、初心者でも気軽に参加できるサークル活動を、引き続き山辺の里スポーツクラブと連携しながら実施します。
- 障がい者スポーツを推進するため、子どもから大人、障がい者も参加できるスポーツイベントや環境づくりについて検討していきます。

具体的な施策

◆誰もが楽しめるサークル活動の推進・支援

山辺の里スポーツクラブにおいて、子どもから大人までを対象としたサークル活動を行います。全世代を対象としたソフトバレーボール・バドミントン・ラージボール卓球、18歳以上の方を対象としたテニス等を実施します。

◆障がい者スポーツへの理解

障がい者スポーツについて理解を広めるため、関係団体等と連携して、障がい者スポーツの環境づくりに努めます。

3 あらゆる世代がスポーツに親しむ機会の創出

現状と課題

- 関係団体の自主性による各種大会を行っています。現在、多くの大会で参加人数、参加チームが減少している状況です。
- 一方で、町民へのアンケート調査結果によると、青年期（24歳以下）・壮年期（25歳～44歳）・中年期（45歳～64歳）・高年期（65歳以上）のどの年代でも『運動やスポーツに関心のある方』が7～8割となっています。（P18）
- 今後行ってみたい運動・スポーツでは、青年期（24歳以下）では「サイクリング」「バドミントン」「ランニング」、壮年期（25歳～44歳）では「ヨガ・ストレッチ・体操」「ウォーキング」「ランニング」、中年期（45歳～64歳）では「ヨガ・ストレッチ・体操」「ウォーキング」「登山・ハイキング」、高年期（65歳以上）では「ウォーキング」「ヨガ・ストレッチ・体操」「室内トレーニング」が上位3位となっています。（P20）

施策の展開

- 今後も関係団体を主体とし、「自分たちの大会」として、各種スポーツ大会・イベントを開催することにより、スポーツによる地域の振興を図るとともに、大会の企画段階から町民に携わっていただくことにより、大会への参加者の増加を図ります。
- 各関係団体に対して、スポーツに関する調査結果等を共有することにより、スポーツ大会・イベント等の開催を支援するとともに、プロスポーツチームと連携し、選手との交流やスポーツに親しむ機会の創出を図ります。

具体的な施策

◆各種スポーツイベントの実施・支援

山辺の里スポーツクラブにおいて、様々な世代を対象にしたイベントを行います。ヨガ・ストレッチ・体操など、健康増進やスポーツの推進等につながる各種イベントを実施・支援します。

◆各種体育・スポーツ大会の開催

町民の健康・体力づくりを推進するため、ゴルフ大会、パークゴルフ大会、バレーボールリーグなど、各種スポーツ大会を開催・支援します。

◆プロスポーツチームとの連携

プロスポーツチームと連携し、選手との交流やスポーツに親しむ機会の充実を図ります。

第2節 未来につながるスポーツ環境づくり

1 総合型地域スポーツクラブ及びスポーツ団体の振興

現状と課題

- 本町では、町民が身近な地域でスポーツに親しむことのできるよう、子どもから高齢者まで、様々なスポーツを愛好する人々が、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる、山辺の里スポーツクラブを町民主体で運営しており、町内のスポーツ団体を含め、地域スポーツの担い手としての役割や地域コミュニティとしての役割を果たしています。
- 町民へのアンケート調査結果によると、山辺の里スポーツクラブを「知っている」と回答した方は41.7%となっており、そのうち、山辺の里スポーツクラブに「参加したことがある」と回答した方は25.0%となっています。(P22)
- 参加したことがない理由をみると、「参加する時間がないから」が42.3%と最も多く、次いで「参加したいスポーツ種目がないから」(25.0%)、「どのような活動をしているか知らないから」(16.3%)となっています。(P23)
- 今後参加してみたい活動について、「教室(体操、ヨガ、ダンス等)」が25.6%と最も多く、次いで「イベント(スケート、ハイキング等)」(11.0%)、「スポーツサークル(テニス、バドミントン等)」(9.0%)となっています。(P24)
- また、関係団体へのアンケート調査結果によると、団体活動において困っていることについては、「新しい参加者が増えない」が5団体と最も多く、団体活動において今後力を入れていくことでは、「新しい参加者の増加」「団体の活動内容の充実」がともに5団体と最も多くなっています。(P29)


 施策の展開

- 山辺の里スポーツクラブのホームページにて、活動状況を発信し、参加者の増加を図ります。
- 山辺の里スポーツクラブ及び、町内スポーツ団体の活動を町広報紙等で発信し、参加者の増加を図ります。
- 地域スポーツの推進役を担うスポーツ推進委員^{※1}により、ニュースポーツ^{※2}の普及・指導を行うとともに、各種スポーツ団体会議等により、山辺の里スポーツクラブ及び、町内スポーツ団体の振興を図ります。

具体的な施策

◆各種団体の育成・支援

各種スポーツ教室へのスポーツ推進委員の派遣指導、未実施地区への開催の働きかけにより、スポーツ・レクリエーション活動の参加者を掘り起こし、地域活動の活性化を図ります。

◆広報活動の実施

山辺の里スポーツクラブで実施している各スクール・サークル・イベントやスポーツ団体の活動内容をホームページ・チラシ・町広報紙等で発信することで、参加者の募集を図ります。

※1 スポーツ推進委員

スポーツ推進委員とは、市町村の教育委員会により委嘱され、住民に対するスポーツの指導及び助言、スポーツ推進のための事業実施に係る連絡調整等、地域スポーツを推進する役割を担う者を指します。

※2 ニュースポーツ

ニュースポーツとは、競技性を重視せず、誰でも参加できることを目的としたスポーツの総称を指します。

2 指導者・ボランティアの確保・育成・資質向上

現状と課題

- 山辺の里スポーツクラブを中心として、指導者研修会を実施しており、令和2年の参加者は35名程度となっています。(P16)
- 町民へのアンケート調査結果によると、この1年間にスポーツに関するボランティアを行ったかとの間では、「はい」と回答した方は5.1%、「いいえ」と回答した方は92.7%となっています。(P25)
- どのようなきっかけがあればボランティア活動がしたいかとの間では、「好きなスポーツの普及・支援」が18.8%と最も多く、次いで「出会い・交流の場」(15.8%)、「社会貢献」(14.9%)となっています。(P25)
- また、関係団体へのアンケート調査結果によると、団体活動において困っていることについては、「指導者がいない(少ない)」が4団体と2番目に多い困りごとになっており、団体活動において今後力を入れていくことでは、「指導者の育成・確保・後継」が3団体と最も多くなっています。(P29)
- スポーツ振興のために、町に力を入れてほしいことについて、「スポーツ指導者・ボランティアの養成」が4団体と2番目に多い意見となっています。(P29)

施策の展開

- 県の各種上部組織・団体及び、地域スポーツにおける中心的な役割を担う山辺の里スポーツクラブ等と連携し、指導者研修会を引き続き実施し、指導者の育成・資質向上を図ります。
- 指導者・ボランティアの確保は、町民の参加意向を適切に把握しながら、引き続き実施します。

具体的な施策

◆指導者研修会の実施

県の各種上部組織・団体及び、山辺の里スポーツクラブにおいて、各スクール・サークル・イベントの指導者の指導技術向上を目指し、指導者研修会を実施します。また、山辺町スポーツ少年団において、JSPO公認スタートコーチ(スポーツ少年団)養成講習会や各種研修会への参加促進等を行い、指導者の資質の向上に努めます。

◆指導者・ボランティアの確保

指導者・ボランティアの確保については、山辺の里スポーツクラブのホームページにて、募集を行います。

3 競技スポーツのレベル向上

現状と課題

- 児童・生徒の体力・運動能力の現状を把握し、体育・スポーツ活動の指導改善に活用する「新体力テスト」を各小中学校で実施するとともに、小学生陸上教室、中学生柔道大会の開催、バスケットボールや野球大会の支援により児童生徒の運動能力と競技力の向上を図るとともに、スポーツ振興基金を活用し、各種スポーツ選手の育成を図っています。
- 町民へのアンケート調査結果によると、小学生の競技力向上やスポーツ推進に必要と思うことでは、「地域のクラブを中心に選手の育成やスポーツの推進を図る必要がある」が42.5%と最も多く、中学生の競技力向上やスポーツ推進に必要と思うことでは、「学校の部活動を中心に選手の育成やスポーツの推進を図る必要がある」が43.4%と最も多くなっています。一方で、文部科学省からは、地域に移行するよう示されており、学校における働き方改革の上でも進めなければならない状況ではありますが、アンケートの結果との隔たりがあり、大きな課題となっています。(P26)
- また、関係団体へのアンケート調査結果によると、スポーツ振興のために、町に力を入れてほしいことについて、「競技力の向上に関する支援」が5団体と最も多くなっています。(P29)

施策の展開

- 小中学生の競技力向上やスポーツ推進においては、学校や地域における活動が必要とされているため、引き続き、学校や地域のスポーツ団体との連携、また外部指導者やプロスポーツチームとの連携も視野に入れ、競技レベル向上を図ります。

具体的な施策

◆学校や地域スポーツ団体における競技力向上の推進

学校での体育活動やスポーツ少年団等の地域スポーツ団体での活動を通じて、小中学生の競技力向上を図ります。児童・生徒の体力・運動能力の現状を把握し、体育・スポーツ活動の指導改善に活用するため、「新体力テスト」を引き続き実施します。

◆地域スポーツの振興及び、競技スポーツの育成

地域スポーツの振興や競技スポーツの育成を図るため、全国・東北大会出場者へ補助やスポーツ団体の競技力強化の取組みへの支援、大会・講習会の開催、競技力向上のための講習会の開催等を行います。

第3節 スポーツ推進を支える公共施設の管理・運営

1 公共施設の管理・運営

現状と課題

- 本町では、多様化する住民ニーズに効果的、効率的に対応するために、公共施設の管理に民間の能力やノウハウを活用しつつ、住民サービス向上を図るとともに、経費の節減等を図ることを目的として、平成31年度から山辺町中央公園及び体育施設の管理運営について、「指定管理者制度」を導入しています。
- アンケート調査結果によると、町内の公共スポーツ施設に望むことについて、「身近で利用できるよう、施設数の増加」が19.2%と最も多く、次いで「利用手続き、料金の支払い方法などの簡略化」(18.3%)、「使用料金の値下げ」(14.6%)となっています。(P27)
- 町内に欲しいスポーツ施設では「室内トレーニング場・フィットネス施設」が41.7%と最も多く、次いで「野外活動施設」(22.8%)、「多目的広場」(20.6%)となっています。(P27)

施策の展開

- 今後もより良いサービスを提供するため、アンケート調査結果の内容を踏まえながら、住民ニーズへの対応の検討を行うとともに、公共施設の適正管理に向けて、指定管理者の選定・管理を実施します。

具体的な施策

◆指定管理者の選定・管理

山辺町中央公園及び体育施設において、より良いサービスを提供するために、指定管理者の選定を行うとともに、管理を実施します。

第 5 章

計画の推進体制

第5章 計画の推進体制

第1節 推進体制

1 計画の推進

本計画は、事務局となる山辺町教育委員会と、町内スポーツクラブ関係者・教育関係者等が連携し、計画を推進していきます。

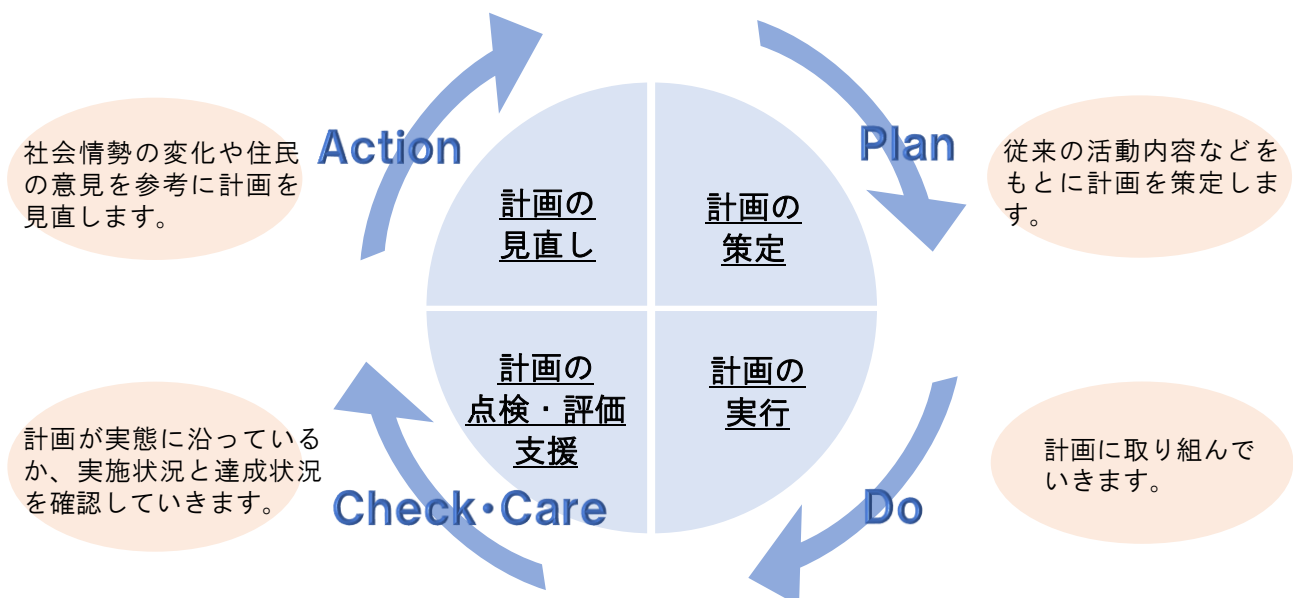
第2節 計画の進捗管理

1 計画の進捗管理

計画を具体的かつ効率的に推進していくために、年度ごとにPDCAサイクルを通じた計画の進捗管理を行います。

計画の中間年度である令和8年度及び、最終年度である令和13年度には、施策の展開に沿って、具体的な施策の取り組み状況や数値目標の達成状況を確認し、その後取り組むべき課題について明らかにします。

また、アンケート等により事業が効果的に行われているかどうかを評価し、目標達成のための課題の把握や事業の見直しを行い、次期の計画策定に活かしていきます。



2 数値目標

本計画では、計画の中間年度である令和 8 年度に中間目標値及び、最終年度である令和 13 年度に数値目標を設け、より実効性のある計画とします。

なお、令和 13 年度の目標値について、達成状況や社会情勢の変化等を踏まえ、必要に応じて見直しを行います。

数値目標			
項目	現状値 (令和 3 年度)	中間目標値 (令和 8 年度)	目標値 (令和 13 年度)
成人の週 1 回以上のスポーツ実施率	46.1%	50.0%	55.0%
成人のスポーツ未実施者(1 年間に一度もスポーツをしない者)の割合	52.4%	45.0%	40.0%
運動・スポーツに関心がある人の割合	76.9%	80.0%	85.0%
山辺の里スポーツクラブの認知度	41.7%	50.0%	55.0%

出典：山辺町運動・スポーツに関する実態調査

資料

1 計画策定委員会設置要綱

令和3年教育委員会告示第7号

山辺町スポーツ推進計画策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 スポーツ基本法(平成23年法律第78号)第10条第1項の規定に基づく山辺町スポーツ推進計画(以下「計画」という。)の策定について検討を行うため、山辺町スポーツ推進計画策定委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 計画の策定に関すること。
- (2) その他必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員9人以内をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

- (1) スポーツ団体関係者
- (2) 教育・行政機関関係者
- (3) 障がい者団体等関係者
- (4) その他教育委員会が適当と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、計画の策定が完了するまでとする。ただし、任期中に委員が欠けたときは、これを補充することができる。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長及び副委員長は、委員の互選によって定める。
- 3 委員長は委員会を代表し、会務を総理する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議(以下「会議」という。)は、委員長が必要に応じて招集し、委員長が議長となる。

- 2 会議は、委員の過半数の出席がなければ開くことができない。
- 3 委員会は、必要があると認めたときは、関係者の出席を求め、意見若しくは説明を聴取し、又は資料の提供を求めることができる。
- 4 会議議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、教育委員会教育課において処理する。

(補則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮り定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、公布の日から施行する。

(施行失効)

2 この要綱は、第2条に規定する所掌事項が完了した日をもってその効力を失う。

2 計画策定委員会名簿

役職名	氏名	所属団体等
会長	沼尻 明男	山辺の里スポーツクラブ 会長
副会長	渡辺 嘉夫	山辺町スポーツ協会 会長
委員	佐藤 俊徳	山辺町小中学校長会 会長
	松井 伸平	山辺町小中学校長会 副会長
	酒井 君男	山辺町スポーツ推進委員会 会長
	佐々木 康行	山辺町スポーツ少年団 本部長
	岡崎 由美子	山辺の里スポーツクラブ 事務局長
	清野 康隆	山辺町社会福祉協議会 会長
	笹原 美喜夫	指定管理者 株式会社パ斯拉ボ 指定管理部事務局長

3 計画の策定経過

本計画の策定経過は以下の通りです。

日程	内容
令和3年6月8日	第1回策定委員会 ・委員の委嘱 ・計画の概要、策定スケジュールの説明・承認 ・アンケート調査概要、町民アンケート調査票案の説明・承認
令和3年7月7日 ～7月26日	町民アンケート調査
令和3年10月22日 ～11月5日	関係団体アンケート調査
令和3年12月21日	第2回策定委員会 ・素案の説明・承認
令和4年2月25日 ～3月11日	パブリックコメント ・素案に対し町民から意見を募るパブリックコメントを実施
令和4年3月24日	第3回委員会 ・パブリックコメント、原案の説明・承認

山辺町スポーツ推進計画

発行年月：令和4年3月

発行：山辺町 教育委員会 教育課

〒990-0392 山形県東村山郡山辺町緑ヶ丘5番地

電話：023-667-1115 FAX：023-667-1112
